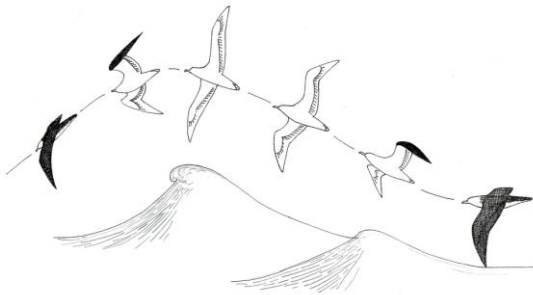


大阪自然史フェスティバル2017(11月18・19日 入場無料)  
大阪市立自然史博物館 A 会場 花と緑と自然の情報センター2階ブース展示 A49  
(地下鉄御堂筋線長居駅下車東へ徒歩 15分)

## 京都・冠島調査研究会

『われらを取りまく海を、冠島のオオミズナギドリを通して理解しよう』



<http://larus.c.ooco.jp/KANMURI.htm>

会の活動は上記のウェブサイトをごらんください。

今回のブース展示の内容は以下の3点です。

### 1) 冠島で集団営巣するオオミズナギドリ 生活史と鳥類標識調査

オオミズナギドリは日本近海の離島で集団営巣する外洋性の海鳥です。近畿地方では京都府舞鶴市沖の冠島に大きな集団営巣地があり近くの沓島にも小規模な営巣地があり、また三重県紀北町沖の大島にも小規模な営巣地があります。一般の人にはあまり知られていない、オオミズナギドリの昼と夜の生活、一年の生活史を伝えたいと思います。冠島では1971年からオオミズナギドリに継続的な標識調査が実施されていて、とても長寿の鳥であること、自分が巣立った場所にいつまでも戻ってきていることが明らかになっています。またジオロケータという新しい研究手法で長距離の越冬地への渡りの実態も解明されつつあります。

- ・映像紹介(調査風景・自動撮影・ジオロケータによる研究など)
- ・オオミズナギドリの標識調査体験!

### 2) 全国的なオオミズナギドリの営巣地の分布状況と保護上の課題

継続的な調査の結果、冠島のオオミズナギドリの営巣密度が減少していることがあきらかになりつつあります。冠島もかかえている大型ネズミ類の問題や、ノネコ問題が深刻な営巣地もあり、オオミズナギドリの集団営巣地保護の重要性を全国的に理解する必要があります。

- ・巣穴調査体験!

### 3) オオミズナギドリだけでなく、冠島の歴史文化的価値・生物多様性の価値

代表連絡先 須川恒(すがわひさし) 京都市山科区在住  
メールアドレス CXD00117@nifty.ne.jp

# 冠島とオオミズナギドリ ～生活史・標識調査～

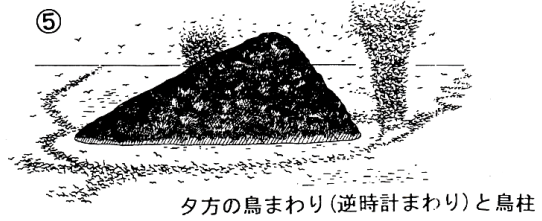
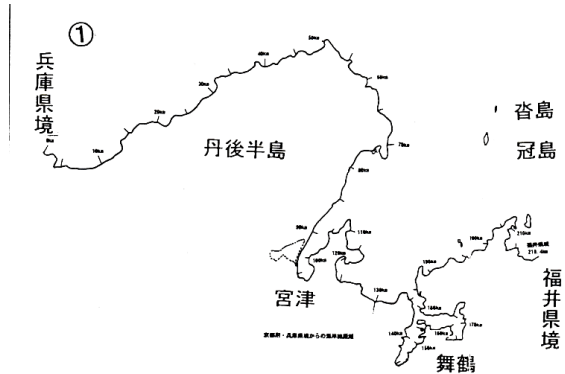
須川恒(すがわひさし)

イラスト：吉田静佳

冠島におけるオオミズナギドリの繁殖過程 ⑧

月	旬	オオミズナギドリの繁殖過程
12	1	南方海域 (フィリピン、バブアニューギニア周辺海域等)
2	上中下	南方海域より帰還
3	上中下	
4	上中下	巣の占有・補修
5	上中下	交尾期
6	上中下	産卵期 (1卵)
7	上中下	抱卵期 (約53日)
8	上中下	孵化期
9	上中下	育雛期
10	上中下	雛最大体重期 成鳥離島期
11	上中下	幼鳥巣立ち・離島期 (近畿地方まで下落)

(吉田1981を一部改変)



夕方の鳥まわり(逆時計まわり)と鳥柱



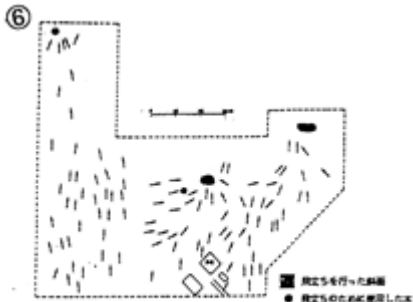
1~2mの深さの巣穴



海面低くなくように飛ぶ



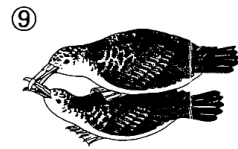
管鼻の奥に塩腺



早朝の飛び立ち場への移動



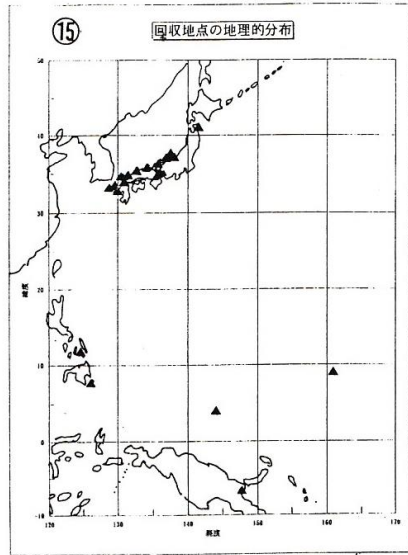
卵・雛



交尾



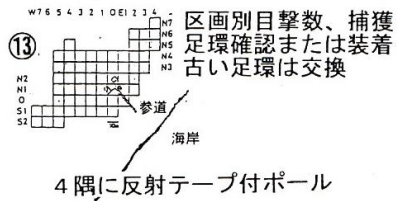
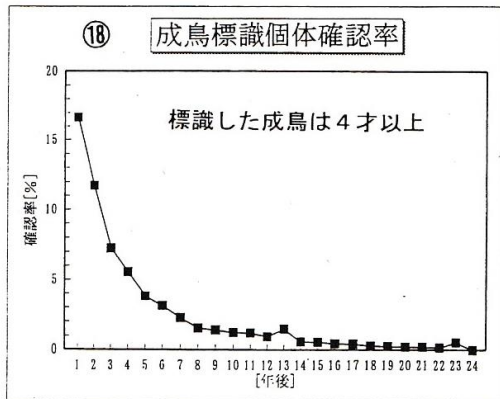
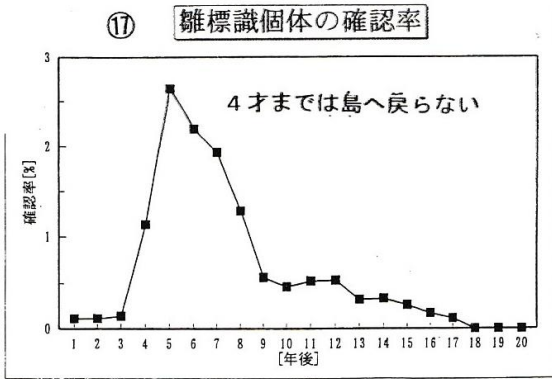
飛び立ちのために  
木を登る



15 回収地点の地理的分布

16 表18 冠島と標識確認地点(3月~10月)の距離の分布

距離の範囲 [km]	3	100	200	300	400	500	600	700	800
	回収例数	2	11	2	2	2	3	0	0



1978年に設定した10×10m<sup>2</sup>の方形区

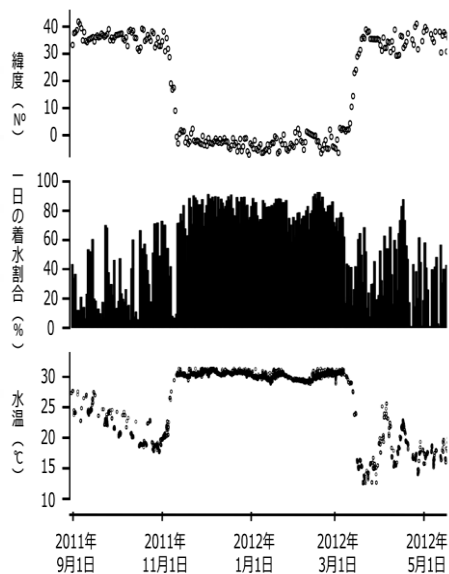
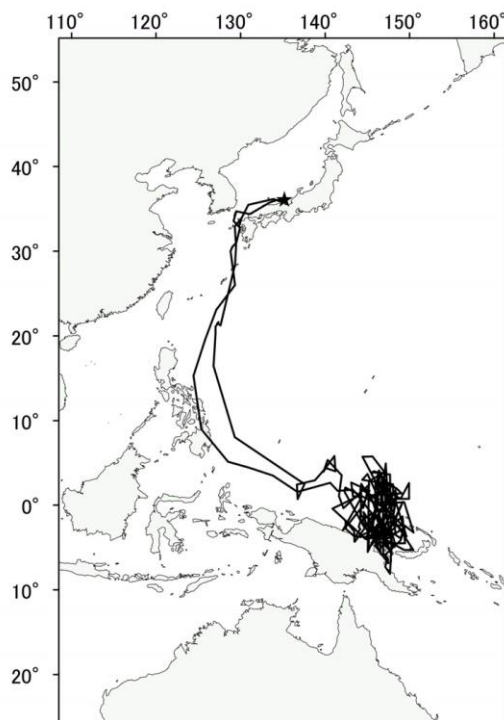
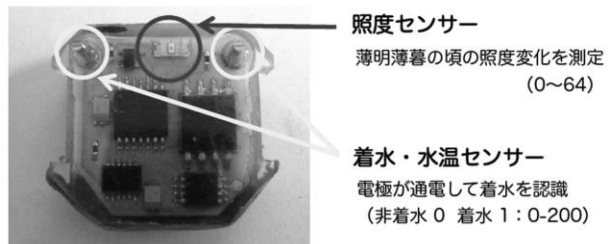
## 冠島でオオミズナギドリに装着したジオロケータで判明した越冬海域の一例

山本誉士 国立極地研究所・北海道大学大学院水産科学院(当時)

(プレスリリース Alula,46(2013 春号):32-33)より一部紹介

2011年8月の調査の際に、冠島で繁殖するオオミズナギドリに照度を約1年間記録する、ジオロケータという小型記録計を20羽に装着した。そして、今年2012年8月の調査で20羽中10羽を再捕獲することに成功した。ジオロケータにより推定された位置情報から、繁殖を終えた後のオオミズナギドリの渡り行動が明らかになった。推定できたオオミズナギドリの1羽(オス)の非繁殖期の移動経路を紹介する。

この個体は、地図のように、秋に冠島を出発した後に西へ移動し、九州北部から南下してフィリピン東部海域を通過して後、南東に方向を転じて、パプアニューギニア北東海域を越冬地とし、春には、おおむね秋の南下ルートと同じ経路で、冠島に戻ってきていることが判った。また図のように緯度・着水割合・海水温の時期的変化もあきらかになった。



ジオロケータから明らかになった緯度・着水割合・海水温